

基本理念

こどもの健やかな成長を みんなのやさしさに支えるまち 習志野

本計画では、習志野市子ども・子育て支援事業計画より基本理念としてきた「こどもの健やかな成長をみんなのやさしさに支えるまち 習志野」を継承します。

未来を担う子どもたちは、家庭や地域において人と人とを結ぶかけがえのない存在です。こどもの健やかな成長を支える営みは、子どもや家庭、地域の人々などがともに関わり、ともに育ち合い、ともに支え合うことで実現できるものです。それがやさしさにあふれるまちづくりとなり、市民一人ひとりの幸せにつながるものと考えます。

本市は、こども基本法の理念にのっとり、すべてのこどもが健やかに成長し、身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる社会を実現するために、地域、行政、企業、団体など多様な主体が子育て・子育て支援の担い手となり、その目的を共有して、子育てを通じて喜びや生きがいを共感することができるよう努めます。

また、こどもが安心して生まれ、権利や個性を尊重されながら、自分の未来を見つめてたくましく生きていける力を持つことができるために、すべての主体が連携、協力し、「みんなのやさしさに支えるまち」づくりに取り組んでまいります。

基本視点・基本目標

基本理念に沿った施策を推進するため、3つの基本視点および基本目標を設定し、各施策に取り組んでいきます。

自律力

こどもが、権利や個性を尊重されながら、未来を見つめたくましく生きるまち

こどもは、未来を担う輝かしい光です。一人ひとりのこどもが、愛され、個性ある存在として認められ、自己肯定感を持って育まれることは、社会を構成するすべての人の役目です。

また、こどもは権利の主体として、その多様な人格・個性及び意見が尊重され、こどもの最善の利益を図らなければなりません。その上で、一人ひとりのこどもが、生涯をたくましく生きるためには、こども自身の力で物事を行う「自立力」に加え、自分や周りをコントロールし、自分を律する「自律力」が必要です。

この二つの力は、こども自身が、人と人とのやさしさのつながりのなかで、命の大切さを知り、他者を思いやる心を持ち、互いに人格と個性を尊重し合いながら、ありのままの自分を大切にすることで育まれるものであり、自分の未来を信じ、たくましく生き抜く原動力になります。

そこで、本計画では、こどもが権利や個性を尊重されながら、自分の未来を見つめて、たくましく生きていく力＝「自律力」を育むという視点をもって施策を展開します。

家庭力

家庭が、喜びや生きがいを感じながら子育てできるまち

家庭には子育てについての第一義的な責任があります。

家庭は、こどもが初めて出会う一番小さな社会であり、こどもがひとり立ちするために、病気や事故などから養護する機能と言葉や知識・技能などを伝達する機能があり、これらの機能は子育ての中で、家庭から子へ引き継がれ、地域社会の中で支えられてきたものです。

しかし、現状は、核家族化や地域社会の希薄化により、子育て家庭を孤立させ、子育てに対する負担感や不安感からネグレクトを含むこどもへの虐待など、こどもの命にもかかわる重大な状況もみられます。

子育ては本来、こどもの存在に感謝し、日々成長するこどもの姿に感動し、家庭もともに成長することができる尊い営みです。この営みを喜びや生きがいを感じながら、それぞれの家庭らしく担うことができるために、妊娠期から出産、子育て期において切れ目のない支援を行うことが重要です。

そこで、本計画では、家庭が喜びや生きがいを感じながら、子育てできる力＝「家庭力」を育むという視点をもって施策を展開します。

地域力 地域社会が、こどもや家庭をやさしく見守り支えるまち

地域や社会が家庭に寄り添い、子育てに対する負担や不安、孤立感を和らげることを通じて、自己肯定感を持ちながらこどもと向き合える環境を整えることができる支援が重要です。

ファミリー・サポート・センター等の市民による相互援助活動のほか、子育て支援を行っているNPOや子育てを経験したママ・パパのあたたかい見守り等の支援の輪を広げることで、自分の地域でこどもや家庭が安心して生活し、一人にならない子育てを営むことが可能となります。

こうした人と人とのやさしさのつながりが、全ての人々の元気の源となり、地域全体の活性化につながると考えます。

そこで、本計画では、地域社会がこどもや家庭をやさしく見守り、支える力＝「地域力」を育むという視点をもって施策を展開します。